



# 4号

発行所  
公益財団法人  
全国学校農場協会

東京都渋谷区  
円山町2-20

**第九回  
全国農業関係高等学校  
エッセイコンテスト  
入賞者発表**

日常の農業学習実践と経験の中で培った農業への熱い思いが多数寄せられました。

### 最優秀賞

『背中  
で語れる農家にな  
る〜父から受け継ぐ魅  
せる農業〜』

北海道岩見沢農業高等学校  
食品科学科三年

滝口みなみ

「農家って貧乏なの？」  
あるとき高校で出会った非  
農家出身の友人にこう言わ  
れました。「どうしてそう  
思ったの？」と私が聞いた  
ところ、「よく農家は大変  
で儲からないって聞くし、  
高校で見た農家を舞台にし  
た映画にも経済的に苦しい  
場面が多かったから」と言  
っていました。確かに、自  
然を相手にする仕事で重労働  
が多いわりに儲からない  
という話はよく耳にします。

私の周りにもそのように  
考えている農家さんもいる  
し、大変で儲からないから  
継がないと言っている友人  
がほとんどでした。しかし  
私はそんなことは思ってい  
ません。逆に農家はとても  
やりがいがあり、楽しい儲  
かる職業だと思っています。  
だからこそ私は、農家にマ  
イナスイメージをもたれ、  
悪く言われることに違和感  
を覚えるとともに悔しさに  
も似た感情が湧いてきます。  
そのため「そんなことない  
と思うよ。私は、やり方次第  
では儲かるし楽しい職業だ  
だと思ってるよ。だから私  
は農家になる。」を友人に  
伝えました。

このように考えるようにな  
ったのは父の影響でした。  
父は高校卒業後から農業  
を営み今年で四十八年にな  
ります。代々米農家だった  
我が家ですが、十四年前に  
私の母が病気で他界し父子  
家庭になったことで肉牛も  
飼いはじめることになり、今  
では牧草十二ヘクタール、  
小麦十一ヘクタールと繁殖  
牛二十四頭の飼育を父一人

で行っています。父は、私  
の幼いころからやりがいを  
感じながら楽しそうに仕事  
をする姿を見せてくれ、弱  
音を吐くことはほとんどあ  
りませんでした。私はそん  
な父の姿に憧れ、農家を継  
ぎたいと思うようになりま  
した。そしていつからか、  
私の将来の夢は、「農家を継  
いで農家レストランを営む」  
ことになっていました。六  
次産業化を図ることで今  
よりももっと進んだ経営に  
したい。なにより素材その  
ものの味をその場で多くの  
人に伝えたいと考えたから  
です。

この夢と父の背中を追う  
ために父の母校である岩見  
沢農業高校に進学を決め、  
食品科学科を選択しました。  
食品科学科の授業では、素  
材の味を生かす食品加工の  
魅力を感じるとともに、良  
い作物を作る苦労と喜びを  
教わり、一次産業あつての  
二次産業であることや、そ  
の結びつきの重要性を感じ  
ることが出来ました。  
また、将来後継者をなる  
農家の娘たちとも出会うこ

とができ、意見を交換する  
ことで経営について深く考  
える機会となりました。ま  
た非農家出身の友人たちか  
らは別の視点からの意見を  
聞くことで視野を大きく広  
げることに繋がりました。  
しかし、やはり農家への印  
象はマイナスイメージを強  
く感じました。どうしたら  
もつといい印象を持つても  
らえるのだろうか。私は父  
に相談しました。すると父  
は、「親や周りの大人たちが  
楽しそうにやっていると  
事をやりたいとは思わな  
いよな。大変なこともあるけ  
れど、それはどの職業も同  
じだし、それよりも人それ  
ぞれのやり方でやりがいを  
持つてできる魅力ある職業  
だと伝えていけるようにし  
ないといけないな。」と答え  
てくれ、私は、「まさにそう  
だ。」と思いました。それと  
同時に、私は農業の魅力を  
知ることのできる恵まれた  
環境で育ったことに気が付  
きました。農業の魅力を伝  
えられる父のような農家に  
なるう。そのため今、私  
には何ができるのか、これ



からなにをしていけばいいの、今までざっくりと追いかけていた「農家を継いでレストランを営む」という夢について具体的に考えるタイミングとなりました。まずは、「農家って貧乏なの？」と聞いてきた友人に夢を打ち明けてみることにしました。初めは、「そうなんだ」と薄い反応でしたが、私と関わり父が行う農業を身近に目にする事で、しだいに興味を持つてくれるようになり、今では、高校卒業後、我が家に就職し将来的に共同経営していきたいと言ってくれるまでになりました。私は、夢の実現への可能性が高まる友人との共同経営に胸をときめかせており、そのためにまずは高校卒業後、大学に進学し、農業経営について深く学びたいと考えています。お互いに意見を出し合い、切磋琢磨することで成長していきたいと想います。

岩見沢農業高校で学び、様々な人と出会ったことで私は、農業が好きな人間が農家や農業の魅力を、農業

を行う背中では伝えていくところ、農家のマイナスイメージを変えていく近道なのだと実感しました。それは、父の農業をする姿に魅了された私や、私の姿を見て農業に興味を持つてくれた友人によって実証されています。「農家を継いで農家レストランを営む」という夢を実現させ、農業の魅力をj知ることのできる恵まれた環境で育つたことを生かし、父のように背中で語れる農家になり、もっと多くの人に農業の魅力を伝えていきます。そしていつか、「農業って楽しいよね」「農家に生まれてよかった」「将来の夢は農家」と言ってもらえる日が来ると信じて、私は、人生を持つて農業が魅力ある素敵な職業であると証明します。

優秀賞

『どぶろくを中心にして地域を興す』

群馬県立利根実業高等学校 グリーンライフ科三年

萩原健輔

『人も家畜も幸せな農業を目指して』  
静岡県立富岳館高等学校 総合学科二年 平野伊吹

優秀賞

『長野の食を全国へ』

長野県立佐久平総合技術高等学校 農業科一年 小坂橋佳鈴

優秀賞

『将来の夢への大きな一歩』

大阪府立園芸高等学校環境緑化科三年 近藤拓輝

優秀賞

『長崎県「離島」のために私達ができること』

長崎県立諫早農業高等学校 食品科学科二年 岡村彩加

お知らせ

公益財団法人全国学校農場協会のホームページに、本財団法人の活動が載っておりますので、御覧ください。

第4回農業関係高等学校  
農業・農村フォトコンテスト

募集要項写真のテーマ  
四季を通しての「わが農村の

風景「わが里山の風景」棚田の風景など農業・農村に関するもの。

応募資格 農業関係高等学校で学ぶ生徒および教職員  
応募期間 平成30年4月1日～平成30年6月30日（作品の返却は致しません）

主催 棚田学会 公益財団法人全国学校農場協会

研究体制の変更について

現在専門部会は6部会（植物・動物・環境・食品・流通経営・ヒューマンサービス）ですが、平成30年度から4部会に統合し、新たな研究・研修体制になります

※新たな研究体制は、生物生産系部会・環境系部会・資源活用ヒューマンサービス系部会・学校経営系部会です。平成34年から研究発表は支部大会の発表から代表を決定し、全国大会での発表となる予定です。また、各研究テーマは最先端の項目を考えております。



東京農業大学  
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE  
〒156-8502東京都世田谷区板倉1-1-1  
www.nodal.ac.jp

農学部 応用生物科学部 生命科学部  
地域環境科学部 国際食料情報学部 生物産業学部

2018年4月新たに2学科が新設

農学部 生物資源開発学科

農業の基盤となる「生物多様性」をキーワードに、持続可能な社会を実現する。

デザイン農学科

生き物や農畜産物に眠る「機能性」。それらを利用して豊かな未来を設計する。